

1. 就学時健診インストラクションビデオ作成

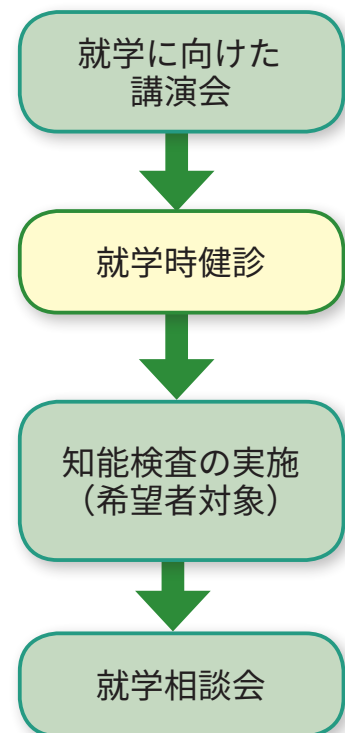
2013年度に伊佐市と本研究科で開発・導入した就学時健診における簡易発達検査は、これまでの就学時健診では、確認が難しかった子どもたちの様子をより正確に捉えることに役立ちました（2013年度報告書参照）。

就学時健診は、市教育委員会と各小学校の教員が検査者となり、マニュアルに沿って行われています。しかし、昨年の実施では、マニュアルの細かい指示の仕方や検査項目の意図がわかり辛いという声があがりました。そこで、今年度は新たに「就学時健診インストラクションビデオ」を作成して、マニュアルとの二本立てで簡易発達検査をマスターすることにしました。

「就学時健診インストラクションビデオ」では、臨床心理士とモデルの子どもが実際の検査場面を演じています。実施の流れがわかるよう脚本を作成し、検査者側と被検査者側からの二方向撮影した実演を合成して編集を行い、臨場感のある検査場面を再現しました。さらに、ビデオには検査項目やセリフのテロップを加えて、マニュアルに頼らなくても理解できるよう工夫しています。また、子どもの正しい応答例に加え、判定が難しい場合や起こりやすいミスも取り上げ、前回の健診実施で寄せられた疑問にも応えるようにしました。

本ビデオを使用した事前研修では、「以前よりわかりやすくなった」、「検査に対するイメージがもちやすかった」など、好意的な意見が寄せられました。

伊佐市における就学までの流れ



「就学時健診インストラクションビデオ」の一場面

2.ペアレントメンター養成研修のパッケージ化

2014年10月3日、佐賀県発達障害者支援センター「結」のスタッフ2名が専門職大学院支援室を訪問し、担当教員の服巻、スタッフの平田、江口とともに、佐賀県ペアレントメンター事業でのグループワークのあり方について打ち合わせを行いました。

打ち合わせでは、ペアレントメンターの意義や佐賀県で取り組むペアレントメンターの茶話会形式のあり方について共有し、その上でメンター養成研修に必要なプログラムを立案しました。「結」スタッフからは、今回のプログラム実施のみならず、当該プログラムをマニュアルとして広く活用できるためにパッケージ化を要望されました。

そこで、2014年10月10日および31日の2日間、担当教員の服巻が佐賀県を訪れ、佐賀県が選定した5名の保護者に対し、メンター養成研修を目的としたグループ活動を実施しました。

1回目の研修終了後に得られた参加者の感想を基に、2回目の研修内容を改善しました。10月31日には、パッケージ化推進のため、スタッフの平田、江口が参加し、実際にプログラムに参加しながら、プログラムの再検討を行い、マニュアルとして広く活用できるメンター養成研修のパッケージ化を試みました。

その後、「結」と情報交換を重ね、研修内容の精緻化が行われ、2015年2月10日には「結」スタッフ2名が再度専門職大学院支援室を訪問し、メンター研修の事前から実施中、事後最終打ち合わせまでの一連の流れを組み込んだパッケージ化を完成しました。

【参加した保護者の感想より】

- ・とても楽しく勉強になりました。自然体でボランティアとして頑張りたいと思います。
- ・今回本当に楽しく研修会を受けることができました。ありがとうございました。落ち込まずに帰れます。
- ・楽しく勉強できたことが何よりよかったです。先生やスタッフの方々ありがとうございました。



ペアレントメンターの研修会の様子



グループワークの様子

研修の一連の流れのパッケージ化

事前打ち合わせによるニーズの確認・共有



プログラムの作成・実際の実施
(プロジェクトスタッフがパッケージ化のため同行)



プログラムの精緻化
(作成したものを「結」スタッフも交えて協議。他の講師も実施可能なプログラム案を作成)



最終打ち合わせ
(研修パッケージ内容の合意と完成)

3. RIFCR 研修会

近年、児童虐待に関する相談件数が急増しており、虐待を受けた児童や虐待が疑われる児童への対応が地域の中で求められています。今回地域支援プロジェクトでは、児童虐待の中でも特に発見・対応が難しい「性虐待」を取り上げ、NPO 法人子ども虐待防止みやざきの会と合同で研修会を開催しました。

我が国では児童虐待防止法によって、全国民に児童虐待の通告義務が課されています。虐待通告義務者であるすべての大人が、虐待が疑われる子どもと出会ったとき、どのように話を聞き、何を聞くべきで何を聞くべきでないかを整理し学ぶことは、地域で子どもを守るための支援として重要になります。

RIFCR（リフカー）とは、アメリカの子どもの権利擁護センターである CornerHouse（コーナーハウス）で開発された、性虐待の被害児童への初期対応のための面接手法であり、子どもの負担を最小限にとどめ、迅速な安全確保に繋げることを可能にします。

研修会の講師として、NPO 法人子ども虐待防止みやざきの会より甲斐英幸先生、廣川真美先生をお招きしました。お二人の先生は、我が国では数少ない CornerHouse より正式に認定された RIFCR トレーナーであり、性虐待児童への対応に関する実践を重ねられています。8 時間の研修時間の中で、性虐待に関する国際水準での知見と面接技法について、熱意を持ってご指導いただきました。

当日の研修会では、定員上限である 40 名の方にご参加いただきました。参加者の職種は、臨床心理士、保健師、法務教官、医師、精神保健福祉士など様々であり、虐待対応に関するニーズと関心の深さがうかがわれました。ロールプレイも交え実践的な研修を行うとともに、多職種の参加者間での積極的な交流も行われていました。

地域支援プロジェクトでは初めてとなる大学での研修会の開催となりましたが、研修内容にも大変好評を頂き、来年度以降も同様の研修会の継続を計画しています。



RIFCR 研修会の様子

【プログラムの概要】

- ・子どもは性虐待をどのように体験するのか
- ・子どもの性的発達
- ・虐待を打ち明けるプロセス
- ・日本の児童保護制度
- ・RIFCR プロトコル
- ・RIFCR に基づくロールプレイ
- ・振り返りとまとめ